

Dr.ひろみの

ハッピー子育てひろば



☆プロフィール☆
鈴木 裕美 (すずき ひろみ)
香川大学医学部 小児科専門医

みなさん、こんにちは。
みなさんの居場所はどこですか？家庭？職場？趣味の教室？そこはあなたにとって、どんなところですか？楽しい、安心する、リラックスできる、何でも話せる、すべきことがあるなどなど。

今日のテーマ

居場所をつくるということ



人間には必ず居場所が必要です。安心して過ごせる場所、自分が必要とされる場所です。
不登校新聞を読むと、長い間不登校をしていたけれど、社会に出て自立することができた子どもたちのインタビュー記事が多く出ています。みんな口をそろえて言うのは、「自分の経験を誰かのために役立てたい」ということです。そして、実際に何らかの形で自分と同じように苦しむ子どもの力になっています。人の役に立つこと、自分なりの役割があることが生きる意味であり、それを実感できるところが「居場所」ですね。

子どもにとって居場所とは、安心して休み、エネルギーチャージのできるところです。これは子育てひろば5・6号を再度お読みください。また、子どもにとって居場所とは、自分の役割があり、誰かの役に立つことができるところです。どのようにしたら、居場所をつくることができるでしょうか？

存在を肯定する言葉

子どもの居場所をつくる声かけ！

お手伝いを頼み、感謝する言葉

あなたがいると『がんばろう』と思える。

あなたといると、元気が出るよ。

一緒にいると楽しい、ほっとする。



お皿を運んでくれて、助かったよ。

お風呂そうじをお願いね。

そうじをしてくれて、ありがとう。

中川翔子さんの「死ぬんじゃねーぞ！」という本を読みました。いじめが原因で学校に居場所がなく、家でも本当のことが言えず居場所がなかった彼女は、ネットの世界に光を見出します。外の世界には楽しいこともあるし、自分を肯定してくれる人がある。世界は広いんだと勇気が持てたと言います。昼夜逆転した彼女を「ネット依存」と片付けてはいけませんし、ネットを取り上げれば、昼夜逆転が治ると勘違いしてもいけません。悩み苦しんでいた彼女を生かしてくれたのはネットを通じたもう一つの「居場所」だったのです。リアルな世界で「悩み苦しんでいる子どもたち」をどう救うのか。私たちは子どもたちの「居場所」になっているでしょうか？